

## いわての復興教育スクール（内陸） 川崎保育園・小学校・中学校の実践から学ぶ

令和元年度いわての復興教育スクール（内陸）の推進校であった、一関市立川崎保育園・川崎小学校・中学校の取り組み内容を紹介しつゝ、川崎保・小・中の共通テーマは下記の通りです。

- カリマネの視点を踏まえて継続的に実践できる防災教育
- 保・小・中の連携を深める
- 地域全体の安全・防災への意識を高める

ここでは、中学校を中心とした実践報告書から抜粋して紹介します。



### テーマ「助けられる人から助ける人へ」

#### (1) 地域の関係機関と連携した1年防災学習

##### ～過去の災害について学ぶ～（6～7月）

7月の1学年研修などの機会を活用し、1年生は1学期に以下の学習を行った。2学期の全校防災学習に向けて生徒のレディネスをそろえるため、防災センターなどの関係機関と連携して学習を進めた。

- ・東日本大震災の記録DVD鑑賞
- ・川崎の水害の歴史（講師：防災センター金野氏）
- ・岩手宮城内陸地震・災害遺構見学（祭時大橋）と経験者の講話（講師：まつるべ温泉かみくら佐藤氏）
- ・「北上川学習交流館あいぽーと」見学



実際に歩いてみると新たな発見があります。防災マップも、作るだけではなく、フィールドワーク等で見直しをすることが重要です。

#### (2) 行政区長さんに講師をお願いした全校防災学習

##### ～フィールドワークと防災マップ～（9月）

昨年度行った「防災マップづくり」の発展として、川崎町の26行政区の区長さん（または自治会役員さんなど）を講師として、自分の家のある地区を実際に歩いて調べる地域学習（フィールドワーク）を行った。実際に歩いてみると、地図ではわからなかった場所や施設がたくさんあり、生徒たちにとっては発見の多い、大変有意義な学習となった。実際に歩いて学んだことをもとに、昨年度の防災マップをさらに進化させることができた。

#### (3) 川崎小学校と連携した防災学習発表会（10月）

フィールドワークで行政区長さん等から学んだことを小学生にも伝えようと、川崎小学校の5年生、6年生を中学校に招待して、中学生が小学生に伝える「防災学習発表会」を行った（フィールドワークの講師や地域の関係機関・保護者も招待し、参観していただいた）。8つのグループに分かれて、ポスターセッション形式での発表とした。中学生たちは、「防災マップ」や、撮影した写真を使って、小学生にわかりやすく伝えようと工夫して発表していた。小学生の聴く態度がとても積極的で、質問もたくさん出してくれたので、盛り上がる発表会となった。参観した保護者の方が、「親よりも中学生のほうが地域のことを知っていると感じた。家に戻ったら、ぜひ、今日発表したことを親にも話してほしい。」と言っていたのが印象的だった。

#### (4) 防災学習・生徒感想集の発行（10月）

上記(1)～(3)の防災学習では、たくさんの関係諸機関や地域住民の方にご協力をいただいた。感謝の気持ちとともに、防災学習で中学生がどのように感じ・考えていたのかをお伝えし、今後も協力をお願いしたいという気持ちを込めて、生徒感想集を作成し、協力していただいた方々に配布させていただいた。



学習の成果を発信する場の設定が学びを深めています。小学生は説明と詳しいマップで危険箇所や対策を知ることができます。また、中学生の発表を聞いて発表の仕方を学びます。地域にも発信することが意欲づけにつながっています。

### (5) 川崎保育園と合同で実施した防災訓練(11月)

隣接する川崎保育園と合同で防災訓練を行った。内容は「避難訓練(地域避難所である川崎中学校への保育園児の避難を、中学生が誘導する)」と、「煙体験(火災時を想定し、園児と中学生と一緒に煙の中を避難する)」の2つ。昨年度は怖がって煙体験ができなかったのに、今年は中学生と一緒にスムーズに実施できた園児がいたり、終わって「楽しかった」「お兄さんやお姉さんが優しくかった」という園児の声が多く聞こえたりと、合同でやるメリットが中学校・保育園の双方にたくさんあることを感じた。また、サポートしていただいた一関東消防署川崎分署の方からも「みんな真剣で、とてもいい訓練だった」と評価していただいた。



いざというとき、中学生のマンパワーが必要です。幼児の安全・安心を考える経験が「共助『かかわる』」の精神の育成につながっています。

### <成果>

- (1) 1学期の1年防災学習を、地域の関係機関と連携して行うことで、1年生の防災への知識・意欲が高まったことはもちろん、「人とかかわりを通して学ぶ」という意識を育むことができ、その後の防災学習への前向きな態度につながることができた。
- (2) フィールドワークの講師を各行政区長さんをお願いしたことで、地元の方しか知らない危険箇所や防災施設などを見学することができ、生徒はもちろん、教員にとってもたくさんの発見がある有意義な学習となった。「百聞は一見にしかず」というように、決して忘れることのない体験となった生徒も多いと思う。
- (3) 発表会に「フィールドワークで学んだことを小学生に伝える」という明確な目的を与えることで、わかりやすい表現や発表を工夫するいい機会になった。また、「災害について語り継ぐ」ことの大切さに気付いた生徒もいた。さらに、講師の方や地域の方にも参加していただいたことで、中学生を地域防災の担い手として育てていこうという考えに共感してくださる方も多かった。
- (4) 生徒感想集をまとめ、配布したことで、川崎市民センターで行われた川崎町文化祭に「川崎中の防災学習について展示してほしい」という依頼を受けるなど、地域に広く伝えるきっかけとなった。
- (5) 保育園児の避難を助けるという体験を通して、「助けられる人から助ける人へ」というテーマの意味を理解した生徒も多い。また、園児も中学生と一緒にスムーズに訓練できるなど、双方にとって意味のある訓練となった。



### <生徒感想>

- ・今回初めてやってみて、煙体験の時に「しゃがんでね」とか「危ないよ」と言ったり、自分が誘導することの大変さ、大切さを知りました。自分の命を守るのはもちろん、家族・高齢者・小さい子などの命を守ってあげたいという思いがいっそう強くなりました。
- ・小さいので足元に注意して歩いてあげたり、自分も小さくなって傘をさしてあげたりした。火災のアナウンスが流れたとき、保育園児が反応していたので、災害が起こった時は安心させてあげたいと思う。

今回の実践で、幼・小・中学校、そして地域との結びつきがより強固なものになっています。幼稚園、小学校の子どもたちが中学校へ進学したとき、また、中学生が社会人になったとき、今回の経験が生かされるでしょう。発達段階に応じたカリキュラムと異校種連携で防災教育を進めることが大切です。

# 令和2年度 いわたの復興教育スクール(内陸) 金ヶ崎小学校・中学校

令和2年度いわたの復興教育スクール(内陸)の推進校は金ヶ崎小学校と金ヶ崎中学校です。今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、当初の計画通り進めることが困難な状況ですが、2学期から計画を再構築し実施しています。

### <事業目標>

- 1 いわたの復興教育の目的である郷土を愛し、その復興・発展を支えるひとづくりを目指し、中学校3年間の計画的な取組により、学校と地域が連携したキャリア教育の充実を図る。
- 2 震災津波の経験や体験からの学びを風化させないよう、被災体験の講話や被災地の見学を通して、命の大切さや自分の価値を認識させ、自分を大切にする意識の向上を図る。



中学校2年生で実施した復興支援学習遠足の様子



# 復興副読本（改訂版）の活用について

今年度、いわての復興副読本「いきる かかわる そなえる」の改訂版が発刊され各校へ配付となりました。今後は、改訂前の副読本と合わせて様々な場面での活用をしていただきたいと思います。管内市町の特色ある取組なども掲載されています。また、教師用手引きの活用例も参考にし、教育活動のあらゆる場面で効果的に活用できます。



小学校低学年用



小学校高学年用



中学校用



手引き

### 1 二度と悲しみをくりかえさないために

くしゃくしゃにこわれた、この赤い車はなんでしようか。

みなさんはおぼえていないか、あるいは生まれていないころのことですが、2011（平成23）年3月11日、たいへん大きな地震がありました。この地しんを「東北地方太平洋沖地震」、地しんがおこった災害を「東日本大震災」といいます。

若手県海ぞいには、大きなつなみがおしよせ、4,600人以上がなくなりました。そして、2万6千枚以上の家が流されたり、こわれたりしました。

この赤い車は、消ぼう自動車です。つなみがおしよせるまで、田野畑村の消ぼう団で使われていました。

消ぼう団の人は、この車にのり、地しんの後、つなみがくる前に村の

みんなをひんさんさせていました。

車にのってた消ぼう団の人は助かりましたが、つなみに流された消ぼう自動車はくしゃくしゃになってしまったのです。

消ぼう自動車がこんなにつぶれるなんて、つなみのおそろしさがよくわかります。この消ぼう自動車は、陸前高田市にある「東日本大震災津波伝承館」にあります。

**たいせつな命を守るためには**

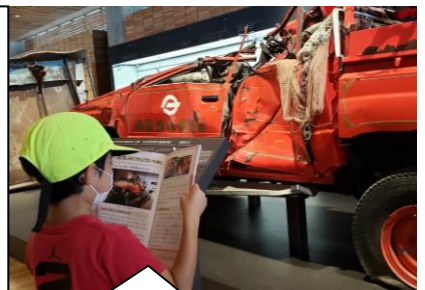
「東日本大震災津波伝承館」は、つなみがどうしておこるのか、今までにどんなつなみがあったか、東日本大震災のときに何がおこったか、などをわかりやすくつたえています。

そして、伝承館のテーマのなかに、～二度と東日本大震災の悲しみをくりかえさないために～という言葉があります。

たくさんの方がぎせいになった東日本大震災でおきたことをくりかえさないためには、みんなで災害にそなえることがひつようです。自分の命を守り、たいせつなものを守るためにはどうすればいいか、家族やみんなで話し合ってみましょう。

**はなしあつてみよう**

大切な命や大切なものを守るためには、どうすればいいか話し合ってみよう。



低学年用副読本には、東日本大震災津波伝承館の内容も掲載されています。校外学習の事前授業等にも活用できます。

副読本、手引きの活用例も参考に、様々な場面、時間での活用をお願いします。

## 研修会中止に伴う研修資料について

復興教育研修会の中止に伴い、研修資料を配付いたしますので、今後の校内研修等にご活用願います。

令和2年度県南教育事務所管内小・中学校復興教育研修会

復興・発展を支えるひとづくりを目指して

